

2009 年度 年次報告書

Annual report 2009 - 10



年間ジュニアプログラム卒業式(2010/3/14)

2010 年 5 月

特定非営利
活動法人

西浜サーフライフセービングクラブ

目 次

1	理事長挨拶	1
2	クラブ概要	2
3	クラブビジョン	4
4	クラブトピック	5
5	2009 年度活動概要	11
6	パトロール委員会レポート	14
7	教育委員会レポート	22
8	競技委員会レポート	26
9	イベント委員会レポート	31
10	事務局レポート	33
11	サポート企業一覧	37



1. 理事長挨拶



西浜 SLSC 理事長 土志田仁

2009 年度はクラブ運営に対し多方面から支えて頂き心から感謝の意と御礼を申し上げますと存じます。誠にありがとうございます。

さて、江ノ島を正面に見据えて東西の水辺の安全を守り、環境をテーマにビーチクリーニングを継続し、その活動が年々地域住民からの信頼を増しております。また未来のライセーバーを育てあげる教育活動の実施により湘南から全国のライセーバーに対する影響は計り知れないほど大きな夢と希望を与えていると思います。

一方、世の中は一昨年来からの世界的な不況により日本経済は全く予測できず迷走しているかのようにも感じますし、歴史的な政権交代の効果は依然感じられません。不幸にも自らが命を絶つという出来事もここ数年 3 万人以上とされております。世の中の人々の流れや考え方が相当なスピードで変革しているように感じております。

昨年は「変革、チェンジ」というキーワードがあらゆる所で使われておりましたが、湘南の中心でもある西浜も観光客の流れや人為的な環境も大きく変わってきている気が致します。藤沢市観光課の発表においても年々東浜の来場客が増え、江ノ島の観光産業も様変わりを感じます。西浜においては相模湾の先から富士山を中心に丹沢山系の一見変わらぬ光景に囲まれ素晴らしいサンセットが西浜を照らしておりますが、やはりここも侵食による影響や生態系が少しずつ変わってきております。昨年全日本選手権では想像以上の台風の直撃にみまわれ無残な砂浜を目にしたことでした。この大会において、地元クラブとして会場の早期復旧に寄与し、日本を代表する競技選手やジュニアメンバーの活躍など地元市民は勿論の事、地方の選手達にも成長し続ける西浜 SLSC の存在を充分魅せることができました。その結果が全国の選手やクラブのボトムアップに繋がると確信しております。つまり変化していく事は多々あるにせよ我がクラブの発展は例えどんな波が来ようとも先人が創りあげた基盤により「命を救う」活動を続ける事は不変であると考えます。どうか皆さん、一人一人の小さな力の結集が、安心と安全を人々に与えられるようなクラブであることを願います。今後も努力を惜しまず邁進して頂きたいと思います。人の顔、人相とも言いますが、二十歳までは親から与えられた顔であります。30、40、50 代の顔は自分が歩いて来た証がとも言われます。どうか素晴らしい笑顔でお会いできる事を願います。最後になりますが皆様のご健勝、ご多幸を心から御祈念申し上げますと共に、2010 年度も宜しくお願い申し上げます。(文責：理事長 土志田仁)



2. クラブ概要

設立趣旨：このクラブは、藤沢地域の海水浴場及びプールの安全指導、監視、人命救助を通じ、ライフセービング活動の普及を図るとともに、ビーチクリーン活動による地域社会への貢献や、ジュニアライフセーバー教室開催などによる、青少年の健全な育成を目的としています。

- 名称：西浜サーフライフセービングクラブ
 設立：1963年 【日本初のライフガード組織】
 2003年 NPO法人取得
 活動拠点：藤沢市片瀬西浜海岸 鵠沼海岸 片瀬東浜海岸 江ノ島岩屋
 事務局：〒251-0035 神奈川県藤沢市片瀬海岸3-15-22 メゾン西浜101
 Tel&Fax :0466-23-5353
 e-mail :info@nishihama.org URL :www.nishihama.org
- 会員：正会員 :133名(2009年3月現在)
 賛助会員 :1団体,5名 計10口(2009年3月現在)
 ジュニア会員 :60名(2009年3月現在)
- 役員：代表 土志田 仁
 監事 宮崎 尊
 理事 渡部 秀人(会員管理担当)
 澤田 喜生(総務担当)
 遠藤 大哉(競技担当)
 入谷 拓哉(教育担当)
 村川 新(パトロール担当)
 風間 隆宏(事務局担当)
 三浦 秀樹(イベント担当)
- 委員長：イベント委員長 高木 溪太
 パトロール委員長 篠 岳瑠
 競技委員長 植木 将人
 教育委員長 新山 真以
 東浜パトロールキャプテン 村山 貴司
 西浜パトロールキャプテン 長竹 康介



図 2-1 西浜 SLSC クラブ活動拠点図

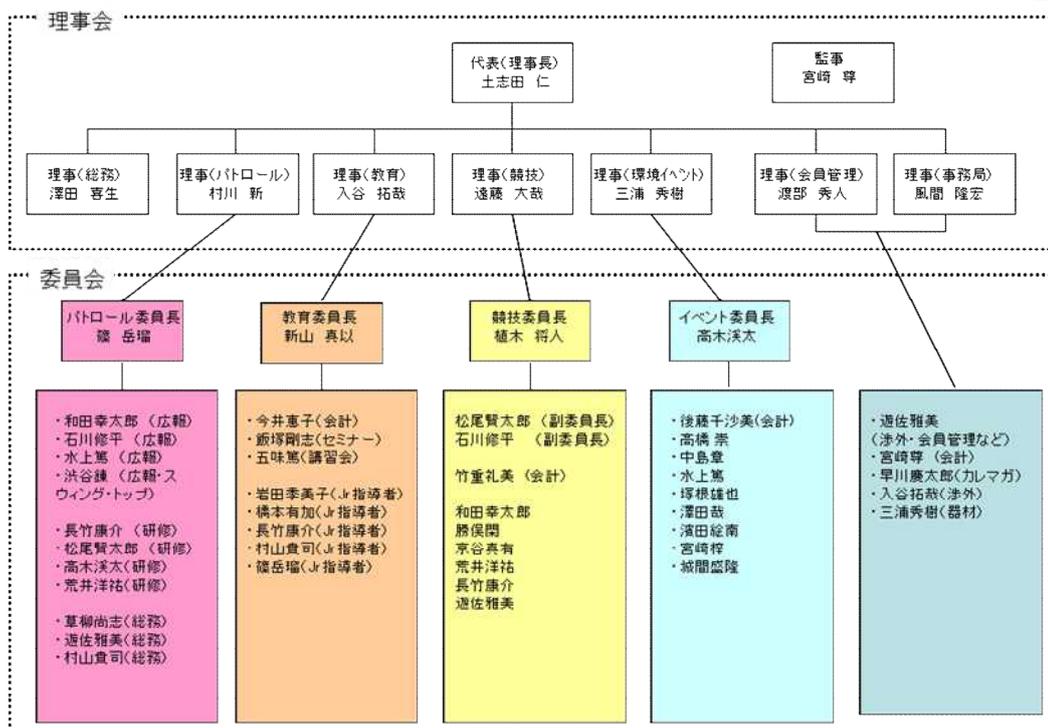


図 2-2 2009 年度西浜 SLSC 組織図

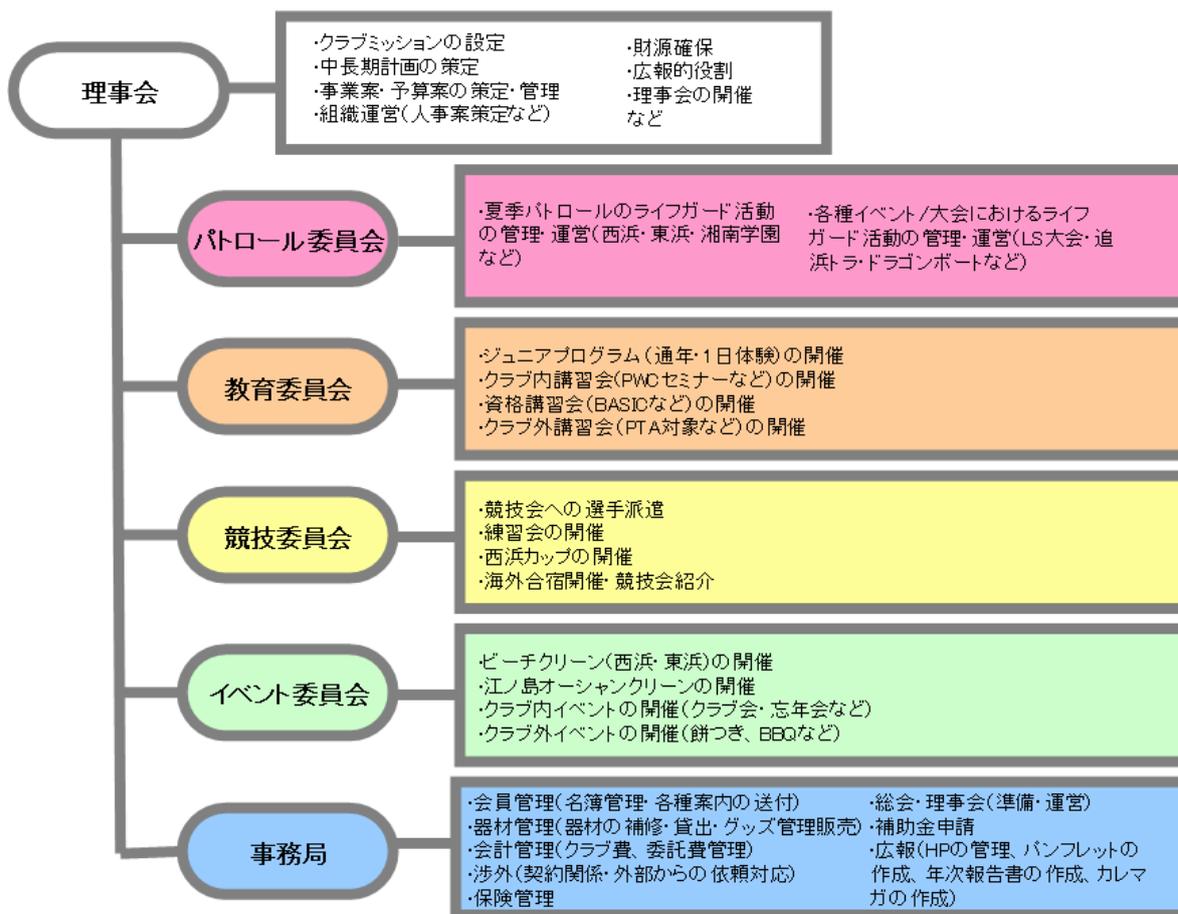


図 2-3 西浜 SLSC 活動概念図



3. クラブビジョン



図 3-1 西浜 SLSC クラブビジョン

2009 年度各委員会目標

パトロール委員会

ノーレスキュー ～無事故達成～

- ・ レスキュー技術・知識の向上 講習会・練習会の開催
- ・ パトロールメンバーの確保・育成
- ・ 生え抜きライフセーバーの育成

教育委員会

- ・ ライフセービング教育通じ、水辺の安全教育普及や子供たちの健全な成長を促す
- ・ 資格講習会開催により、クラブ員増加を目指す
- ・ セミナー開催により、クラブ員の資質向上を図る

競技委員会

全日本選手権総合優勝 4 連覇！

- ・ レスキュー技術、体力の向上 練習会の企画、開催
- ・ 全日本プール選手権総合 5 位, SERC 優勝！
- ・ 全日本選手権参加者拡大 50 名！

イベント委員会

- ・ ビーチクリーンの参加者増大 目指せ年間 2000 名！
- ・ 各種イベントにおけるクラブ員の参加率の向上！

事務局

安心・安定感のあるクラブ運営

- ・ クラブ員の満足度向上
- ・ クラブ外へ NISHIHAMA の積極的アピール
- ・ 事務局作業の効率化・健全化



4. クラブトピック

トピック 1

日本ライフセービング協会（JLA）の 2009 年度ライフセーバー・オブ・ザ・イヤーの教育賞に入谷拓哉さんが選ばれました。



【ライフセーバー・オブ・ザ・イヤー教育賞受賞】 入谷拓哉

2009 年末に開催されました日本ライフセービング協会の平成 21 年度納会の席で、「JLA ライフセーバーアワード 2009 教育賞」を受賞いたしました。受賞理由は、「永年にわたり、JLA の指導員として継続的にライフセーバー養成や青少年への普及啓発に著しく貢献された。特に、地域におけるジュニア教育に貢献され、年間を通じた継続的な教育活動基盤を構築された。ジュニア期の枠を超えて活躍するライフセーバーを輩出するなど、保護者や地域を巻き込みながら、多くの子供たちの人間形成に著しく貢献した。」というものでした。特に、地域クラブにおいてジュニアの年間活動の構築とその発展に対して評価を頂いたと感じておりますが、ここまでこの活動を大きく出来たのは決して私一人の力ではなく、多くの協力があってからこそであり、また西浜という偉大なクラブがあったからこそであるということをお忘れはできないと思い、この機会にこれまでの歴史や、携わった人々へのお礼も込めて記事として書かせていただくことにしました。

はじめて、「ジュニア」として活動を始めたのは 2000 年。初めは、土志田さん、渡部秀さん、森山さん、小倉さんのお子さん達（なぎさ、みお、りょう、こう、ようへい、こうへい）を集めて、夏休みの夕方に集まって練習を始めたのがきっかけです。参加費はもちろん無料。時間は夕方 1 時間程度のものでした。入谷がパトロールに参加している日に 1 時間早く抜けさせていただき、16 時から練習を開始していました。



その当時は「入谷塾」なんて呼ばれていましたね。そこから徐々に人が集まるようになり、2002 年に「西浜ジュニアチーム」として活動を始めました。メンバーは 12 名まで増えましたね。その時の指導者は、新山真以、原伸輔、池田綾といったメンバー。今考えても豪華な指導者でした。その年も夏休みの活動が中心でしたが、冬にはサーフビレッジを利用さ



せていただき、救急法や、海の知識などレクチャーをするなどして徐々に期間を伸ばしていけるようになりました。また、10月のビーチクリーンの後に「発表会」を設け、これまでの活動の感想を1人1人に発表してもらい、最後にランスイムランをビーチクリーンに参加した人達に見ていただきました。当日は低気圧の影響で波が高くかなりハードでしたが、強引に泳がせた事を覚えています。おそらく保護者のみなさんはやきもきした事でしょうね。

2003年あたりから、アクラブ藤沢の選手コースに通う子供たちが参加するようになり一気にメンバーも増え、2004年から「西浜ジュニア・ライフセーバー・プログラム」として動き出しました。メンバーも25名に増え、活動も1年間行うようになり、今と同じ形態が築き上げられました。そのメンバー増員のきっかけとなったのが高橋勝也さん一家の加入でした。高橋さんは、入谷がライフセービングを始めた大学1年のころにトップの選手として活躍されていた方で、オーストラリアのジュニアの様子を良くご存知でしたので、この活動には保護者の方のサポートが必要であるとみなさんに呼びかけてくれて、海に入るときにはお父さんたちが一緒に入って周りでサポートしてくれる形態を作り上げてくれました。今では当たり前のような光景ですが、保護者の方々の協力を得られるようになった事がこのジュニアプログラムの発展のポイントでありますし、そのきっかけを作ってくれたのが高橋さんでした。

2005年にはメンバーも35名にまで増え、特にアクラブ藤沢の選手コースの子供以外から入会していただけるようになり、あらゆるところからいろんな人たちが集まるようにもなりました。このころにはいつのまにか口コミで人が集まるようになりましてね。

「西浜カップ」を初めて開催したのもこの年です。この時は参加者も少なかったのですが、大人から子供まで混ざってチームを作り、チーム対抗戦形式で開催しました。また、この年の冬には初めて海外遠征として「オーストラリア合宿」が開催されました。参加者は坂本家と見角家。姉妹クラブとなったノースパーリー-SLSCを訪れ、いろいろな交流をさせていただきました。



2006年から2007年にかけて、メンバーが60名近くにもなり、いよいよ2008年から、今のクラス別の形式を採用しました。1・2年生、3・4年生、5・6年生、中学生の4グループに分け、それぞれに担当の指導者を配置し、それぞれの年代にあった細かい指導と、個々の成長をはっきりと見定めるようにしました。しかしながら普段の練習では、上級生が下級生を指導する場面が減り、上級生のリーダーシップが損なわれがちになりましたが、その分、大会などでそのような場面をしっかりと持てるように指導していくようになりました。そしてついに、この年の3月、ジュニアプログラムからの卒業ということで初めて「卒



業式」を開催しました。植松拓也・小林海・今野正悠・坂本陸・松崎みづきの 5 名を高校生として大人と同じ活動に送りだしました。

もともこの活動を始めたきっかけは、将来のライフセーバーの育成でした。ジュニアプログラムから育った子供が、ライフセーバーとして海の安全を見守る。そんな日を夢見て 2000 年からスタートしました。今その夢が一步步叶おうとしています。ここまで歩み続けるには様々な方の協力無しではあり得ませんでした。とくに保護者のみなさまのご協力は何事にも代えがたい大きな力となつとります。初めて活動を開始したとも、森山さんや、土志田さんの奥様方にご相談させていただいてご協力をして頂いたり、事あるごとに保護者の方のご協力を得たりしながら進めてきました。そして現在も、海の練習の時には一緒に海に入ってサポートしてくださったり、イベントの時に協力していただいたりと、本当に感謝しております。改めてここまで温かく見守って頂いた方々へ感謝申し上げます。また、一緒に指導に携わってくれた指導者の皆さんにも感謝します。ありがとうございます。



これからの私の夢は、メンバーを 200 名、300 名へと増やし、海へ遊びに来る子供は必ずこのプログラムに参加するようになるくらいまで規模を大きくしたいと夢見ております。それは「ひとりひとりがライフセーバーなら事故は起こらない」ということです。事故を未然に防ぐ事が出来る、自分の命を守ることが出来る子供たちがいて、その子供たちが自分たちの海を守っていく、そんな素敵な社会にしていけたら私の夢は完結します。さらに、その運営をプログラムに参加する子供を持つ保護者のみなさままで進めていくことができればさらにすばらしい事だと思っています。それにはまだまだ先は長いですが、その実現には様々な困難があるでしょうが、どんな困難があろうとも協力していただける仲間がいるからこそ、一步步確実に歩み続けるのであろうと実感しております。これからもこの夢の実現に、みなさまのご協力を頂けたらと幸いです。みなさんと一緒に作り上げていきたいと思っております。





トピック 2

2008年度西浜オブザイヤーに渋谷錬が、ジュニアオブザイヤーに市川歩美が選ばれました。また今年度より各委員会からノミネートし、西浜オブザイヤーを決定する形になりました。各委員会からのノミネート者は以下の通りです。

・パトロール	渋谷錬
・教育	該当者なし
・競技	長竹康介・京谷真有
・イベント	後藤千沙美
・事務局	早川慶太郎

【西浜オブザイヤー】 渋谷錬

このたびはこのような名誉ある賞を頂き感謝しています。一番嬉しかったことは「パトロール」が認められ、この賞を頂けたことです。その気持ちと共に西浜オブザイヤーを頂けたことを2007年、2008年にパトロールを共にしたメンバーに感謝します。なぜかという、パトロールは一人ではできないからです。2007年、2008年の夏のメンバー全員でこの賞を受賞し、その代表として、私が受け取る。今はそんな気持ちでいます。また、いつも影で私を支えて下さった篠岳瑠さん、本当にありがとうございました。いろいろな人が来るこの浜をたくさんのメンバーで守るからこそ、ワクワクし、ハラハラします。今一度、無事故にむけて、みんなの力を一つにしていきたいと思います。ライフセービング活動において、多方面にしっかりと活動しているのが我がクラブの特徴ではありますが、原点回帰「パトロール」を大切にできるクラブに私は誇りを持ちます。まだまだ、未熟者です。これからもご指導よろしくお願いします。



【ジュニア・オブ・ザ・イヤー】 市川歩美

私はオブザイヤーなど、遠い存在だと思っていました。正直、なろうという気持ちさえ無かったです。そういう自分をオブザイヤーに導いてくれたのが、私を支えてくれたお父さんやお母さん、先生、一緒に練習を積み重ねてきた友達です。一人でも欠けていたら、絶対になれたとは思いません。だから、感謝の気持ちでいっぱいです。

今年中学生になった私は、部活や勉強が大変になって練習に行けなくなる時もあると思うけど、なるべく行こうと思っています。このクラブにいて、自分の命のために必要な知



識だけでなく、他にも色々な事が自分に吸収されていきます。練習がきつくて、息切らしながらやっているけど、やっぱり楽しいです。オブ・ザ・イヤーになったという自覚を持って、みんなを引っ張っていける人になりたいです。オブ・ザ・イヤーになった時のあの気持ちはずっと忘れないです。

表 4-1 歴代オブザイヤー受賞者（括弧は委員会からのノミネート者）

年	オブザイヤー	ジュニア	競技	パトロール	教育	イベント	事務局
2000	1 村川新						
2001	2 入谷拓哉						
2002	3 斉藤裕之						
2003	4 小笠原哲也						
2004	5 原伸輔						
2005	6 三浦秀樹	渡辺日南子					
2006	7 教育委員会	小林海					
2007	8 竹重礼美	内堀真綸					
2008	9 渋谷錬	市川歩実	(長竹康介) (京谷真有)	(渋谷錬)	なし	(後藤千沙美)	(早川慶太郎)

トピック 3

2007年に発生した引地川河口での事故を教訓に、2008年度に藤沢市に藤沢市相互提案型協働モデル事業として提案していたジュニアライフセービング教室が採択され2009年度に18校で実施しました。

【協働事業報告】 原伸輔

2009年度は、入谷さんと共に藤沢市内18小中学校で講演会を実施しました。どこの学校でも印象的だったのは子供たちの真剣に話を聞く態度、眼差し。私も沢山のことを学びました。協働事業は、市民推進課への事業提案から始まり、クラブ内・教育委員会・受け入れ校との調整と多くの過程を経て実現しました。これは当初から関わっていた入谷さん、風間さんをはじめとする西浜 SLSC の総合力による大きな成果だと思います。学校での打ち合わせ、当日は1,000人を超える人間が蒸し暑い真夏の体育館に集まり1時間の話をし、全てが楽しかった、振り返ればそれしかありません。



私自身も西浜のジュニアプログラムをやってきて、いつかは学校授業に食い込んでいきたいとぼんやりと思っていました。そして西浜 SLSC が活動する上でぶれない「地域に密着」への姿勢がまた一つ現実のものになりました。過去には個人的な繋がりもあり小学校での水泳授業や先生方に CPR&AED の講習会をさせていただいたが、いよいよ藤沢市のお墨付き



で小中学生への教育現場に踏み込むことができるのです。これには西浜クラブの揺るぎない信念のもとに積み重ねてきた活動，そこに携わった沢山のクラブ員のみなさん，苦しい思いや歯がゆい思いなど数えきれないほど乗り越えてきた理事会の方々の努力があつてのことですが，忘れてはいけないのが2007年の夏の引地川河口での事故。2008年この中学生が通っていた学校で海での安全プログラムの講演を全校生徒，全教職員のみなさんの前でお話をさせていただきました。そこで会った生徒達の笑顔。この笑顔を「守る」という思い，水の事故に遭遇しないことはもとより，人と人との支え合い，友情などを，生命教育を根づかせなければならぬと思いました。海での事故を未然に防ぐ最も確実な方法は，その行為に参加しないことです。しかしそれでは「楽しさ」や「冒険性」「意外性」「自然」に触れ実感したりすることはできません。水辺での活動への参加は，危険を正しく理解し，安全の上に成り立ってこそ楽しく遊べる，それを伝えるのがこのプログラムの大きな意味だと思います。死について学ぶ「Death Education」...「単に死ぬということはどういうことかを教えるのではなく，生きることを真剣に考える教育，または生命を尊ぶ心を育てる教育に他ならない」といいます。更には，西浜のジュニアプログラムでは「知っている・分かっている・理解している・身につけている」過程を経ていきます。生命を尊重する心は，資質として子どもの内面に潜んでいるものであり，それを心の中で芽生えさせ，大きくしっかりと育てていくことが大切ではないかと思っています。今後はこの考えを更に協働事業に組み込んでいきたいです。

表 4-2 小学校（8校）における講演実施表

小学校			
学校名	講演実施日	打合実施日	参加人数
1 小糸小学校	6月10日(水) 13:45～(5時限目)	5月21日(木) 16:30～	121名 5年生(2クラス) 6年生(2クラス)
2 辻堂小学校	6月18日(木) 13:40～(5時限目)	6月10日(水) 16:30～	166名 4年生(5クラス)、保護者3名
3 鶴沼小学校	6月23日(火) 13:30～5年生(5時限目) 14:20～6年生(4時限目)	6月16日(火) 18:00～	263名 5年(4クラス)、6年(4クラス)
4 鶴南小学校	6月23日(火) 13:40～(5時限目)	6月16日(火) 14:30～	374名 4年(3クラス)、5年(3クラス)、6年(3クラス)
5 本町小学校	6月24日(水) 13:40～(5時限目)	6月23日(火) 10:30～	223名 5年生、6年生
6 片瀬小学校	7月01日(水) 09:35～(2時限目)	6月23日(火) 10:30～	154名 4年生(4クラス)
7 六会小学校	7月09日(木) 14:30～(6時限目)	6月30日(火) 10:30～	108名 4、5、6年生の希望者保護者41名、子供67名
8 大越小学校	7月13日(月) 13:30～(5時限目)	7月07日(火) 12:10～	191名 5年生(4クラス)、6年生(4クラス)、保護者
合計			1446

表 4-3 中学校（10校）における講演実施表

中学校			
学校名	講演実施日	打合実施日	参加人数
1 大清水中学校	6月25日(木) 11:10～(3～4時限目)	6月16日(火) 10:15～	399名 全校生徒
2 羽鳥中学校	6月26日(金) 11:30～(4時限目)	6月16日(火) 13:00～	340名 全校生徒
3 明治中学校	7月01日(水) 13:20～(5時限目)	6月23日(火) 16:00～	538名 全校生徒
4 第一中学校	7月02日(木) 14:35～(6時限目)	6月23日(火) 9:00～	170名 1年生(5クラス)
5 村岡中学校	7月06日(月) 13:40～(5時限目)	6月30日(火) 15:00～	622名 全校生徒
6 片瀬中学校	7月14日(火) 11:40～(4時限目)	7月07日(火) 9:00～	167名 3年生(5クラス)
7 高浜中学校	7月15日(水) 11:40～(4時限目)	7月15日(水) 11:00～	350名 全校生徒
8 湘洋中学校	7月15日(水) 9:05～(1時限目)	7月07日(火) 11:00～	256名 1年生(7クラス)
9 鶴沼中学校	7月16日(木) 11:00～(3時限目)	7月07日(火) 16:00～	803名 全校生徒
10 藤ヶ岡中学校	7月17日(金) 10:50～(3時限目)	7月07日(火) 10:00～	540名 全校生徒
合計			4185



5.2009 年度活動概要

西浜 SLSC では、本年度もパトロール・教育・競技・イベントを柱に多様な LS 活動を積極的に行った。以下にその概要を報告する。各活動の詳細レポートは、次章以降を参照されたい。

パトロール：夏季期間（7-8月）に藤沢市片瀬西浜・東浜・江ノ島岩屋でパトロール活動を行った。2009年7-8月に藤沢市内の海水浴場を訪れた海水浴客は、前年より約15.5万人多い約423.1万人（東浜：115.8万人，西浜：305.3万人，辻堂：1.9万人）であった。パトロールキャプテンは、西浜は長竹康介，東浜は村山貴司が務めた。延べパトロール時間は、片瀬西浜・江ノ島岩屋で10,661時間（うちボランティア（無給）：1,663時間），片瀬東浜で，5,831時間（うちボランティア（無給）：848.5時間）。またパトロール参加人数（1日でも参加した人）は、片瀬西浜・江ノ島岩屋で139人，片瀬東浜で，92人であった。パトロール・ボランティア時間，参加人数ともに昨年を大きく上回った。さらに今年度より7月の前半に日体大生がパトロールに参加していただいた。メンバーが手薄になりがちな時期であるので非常に大きな助けになった。しかしながら8/8に鵠沼海水浴場において2名の死亡事故が発生した。メンバー全員全力で警備した結果であるが，海水浴場内では2003年以来の事故である。無念でならない。亡くなった方々のご冥福を心よりお祈りいたします。

また夏季パトロール以外の事業として，夏季パトロールに向けた器材セミナー，チューブ・ボードセミナーを実施した。さらに追浜トライアスロン（6月），全日本LS選手権（片瀬西浜：10月）・江ノ島ドラゴンボートレース（境川河口：10月）への大会運営協力，湘南学園のプール授業のガード（6-7月）を行った。新しい試みとして，東浜で開催された江ノ島スイムツアーの運営補助（8月）を行った。

教育：年間を通じたジュニアプログラムは，年々その活動規模を拡大し，本年度の登録者は60名（小学1,2年12名，小学3,4年16名，小学5,6年10名，中学生22名）であった。年間23回（月2回）のプログラムは，海の基本的知識から安全な遊び方，大会への参加，三角巾やプールでの指導など多岐に渡る。8月には茨城県大竹LSC（参加者12名，スタッフ3名）で合宿を行った。また昨年に引き続き保護者会（33名参加）を11月に開催し，プログラムに対する意見交換を行った。そして昨年度に引き続き4名のメンバーがジュニアを卒業した。高校生メンバーも徐々に増えてきていることから，今後は高校生に対するプログラムの充実もクラブ全体としての課題である。

短期間で行う体験プログラムは，大きな進歩を見せた。藤沢市との協働事業により18校においてジュニアライフセービング教室（参加者：5,731名），湘南学園6年生（100名）を対象とした海でのプログラムを実施することができた。これは今までのジュニアの活動が評価され，さらにその活動が広く期待されている結果だと思われる。その責任は重く，よりレベルの高いプログラム・講師派遣が必要である。



クラブ外向けの講習会として日本ライフセービング協会（JLA）公認の BASIC サーフライフセーバー講習会（18 名参加），CPR 講習会（28 名参加）を 2 回開催，そして今年度よりアドバンス講習会（5 名参加），更新講習会（14 名参加）を新たに実施した．またクラブ内向け講習会として，IRB/PWC セミナーを 3 回開催（述べ 37 名参加）した．

競技：今年も全日本選手権を始めとする数々の競技会に，多くのメンバーが選手としてまた，スタッフとして参加した．

メインイベントの 10 月の全日本 LS 選手権では，東日本予選が台風の影響で開催できず全て東日本予選も含め西浜開催となったが，クラブメンバー丸となりホストクラブと役割を果たし，無事開催することができた（団体種目はキャンセル）．総合優勝は残念ながら逃したものの総合 3 位に入った．ビーチフラッグス女子（17 連覇）（遊佐雅美），ビーチフラッグス男子（植木将人），パドルボードレース男子（長竹康介）での優勝など 5 個のメダルを獲得し大会を盛り上げた．昨年ジュニアを卒業した 2 名の高校生（坂本陸・小林海）も初めて参加し活躍を見せた．また 5 月の全日本プール選手権で，久々の総合 3 位に入った．ラインスロー（植木・長竹）で優勝するなど，メダル 6 個を獲得した．

今年も日本代表としてクラブメンバーが国際大会に参加した．9 月に和歌山県南紀白浜海岸で開催された三洋物産 インターナショナルライフセービングカップ 2009 には長竹康介・遊佐雅美・勝俣閑が，11 月のドイツで開催されたジャーマンカップには勝俣閑が参加した．そして 3 月に開催された全豪選手権には植木将人・長竹康介・勝俣閑が参加し，ビーチフラッグス男子で植木が 6 位入賞した．3 大会とも，代表監督として入谷拓哉が参加している．

ジュニアの大会にも積極的に参加し，8 月に東浜で行われたジュニアライフセービング競技会では，各年代で表彰台の独占を含む 37 個のメダルを獲得した．日々のトレーニングも全日本前の西浜合宿や冬場にはプールでの朝練を行っている．

イベント：毎月第 2 日曜日に鵜沼海岸・東浜で行っているビーチクリーン活動は 10 年目を向かえ，ビーチクリーンは，サーファーや地元住民など多くのメンバー以外の参加が見られ地元に着している．ビーチクリーン後に AED セミナーなども行い，今年度の延べ参加人数は 2,060 人に上った．9 月には DHL 社の社員対象のビーチクリーンイベントを受け入れ，同時に海の安全に関するレクチャーも行った．また美化財団を通して GROCS のサンダルを参加者に提供していただいた．一方，クラブの特徴を生かしたオーシャンクリーン（ボードやカヌー等で江ノ島までパドルングして行き徒歩ではいけない場所の清掃）は，残念ながら今年は天候不良のため開催できなかった．

クラブ内イベントとして，7 月に激励会，8 月にクラブ会を開催しメンバーの交流を深めた．さらに地元西浜町内会の協力を頂き 1 月に餅つき大会を開催した．ジュニアも含めた多くにメンバーや地元住民も参加し，毎年恒例の行事になりつつある．また地元西浜町内



会イベント協力（山本公園子供祭り，諏訪神社夏祭り，地引網等）を積極的に行った。

事務局：今年度も，昨年度に引き続き，渉外・会計・器材・会員管理業務に担当者をつけ，複数名で事務局運営を行った。会員向けの情報提供ツールの整備として，従来のカレマガ（メールマガジン）の発行に加え，メーリングリストの作成，HP の更新率アップなどを積極的な改善を行った。なお HP の更新に関しては，宮城俊久氏に多大な協力を得ている。藤沢市に市民活動団体提案協働事業は昨年度に引き続き採択され，2010 年度も実施できるようになった。また笹川スポーツ財団から年間ジュニアプログラムに対しての助成と AED の助成を受けることができた。新たな試みとして湘南スタイル講演会（6 月）及び藤沢市議会議員対象の海の講演会（7 月）に外部講師として参加した。10 月には深沢高校で開催された NPO 見本市に参加。12 月の JLA 納会では，入谷拓哉がライフセービングオブザイヤーの教育賞を受賞した。

上部組織である JLA でも多くのメンバーが活躍している。理事長に小峯力，理事に土志田仁，ジュニア教育委員会委員に植木将人，学生委員会委員長に泉田昌美，競技運営・審判委員会委員長に深山元良・委員に泉田昌美，競技力強化委員会委員長に遠藤大哉・委員に入谷拓哉・遊佐雅美，環境委員会委員に堀口敬洋・風間隆宏，国際委員会委員長に相澤千春，広報事業委員会委員に風間隆宏，支部委員会委員長に土志田仁が参加している。また神奈川県支部には理事として土志田仁，山口毅，相沢千春，泉田昌美が参加している。

従来よりサポートを受けている BILLABONG 様からは大会ウェア，TIMEX 様からは時計・テントの提供を今年度も引き続き頂いた。さらにビーチクリーン時には毎回イースト様よりコーヒーのご提供頂いた。上記以外にも多くの協力店のサポート（協力店一覧参照）や様々な方々の有形無形のサポートを受けた。ここに記して深甚なる謝意を表したい。



アドバンス講習会



チューブ・ボードセミナー



6. パトロール委員会レポート

【夏季パトロール関係】

まず、この夏に鵜沼海岸で亡くなられた二人の男性の御冥福を祈りたい。また、二度と同じ事が繰り返されないように私はこの出来事を今後も語り継いでいきたい。風化させることなく伝えていくことが唯一の供養であり、ライフセービング活動をする我々の使命である。夏の報告をクラブ員の皆さんにするにあたり、二年連続で同じ内容になってしまっていることにディレクターとして力量不足を感じてなりません。反省だけなら誰でもできるし改善しなければ事故を糧にできていない。心底自分をふがいないと感じた夏でした。

しかし、今年のチームは長竹、村山の両キャプテンの下で一致団結しており、皆が自分の役割を理解して、自分の出来る事を一生懸命まっとうする熱いチームでした。特にあずさ、えな、かなみの成長は私にとって最高の収穫でした。私がディレクター一年目に撒いた種が芽を出し、花を咲かせた夏でした。また、メンバー一人一人が自分の目標を持ち、それにむかって努力し、成長する姿が随所に見られました。彼らが成長する姿が見られるたびに、本当にディレクターをやった良かったと思える夏でした。この夏で、色んな意味で、西浜 SLSC が変わっていくことを願ってやみません。

最後にこの夏に出会った全ての人々に、西浜 SLSC の活動を支えてくれた全ての皆さんに、クラブを運営してくださってる土志田さんと理事の皆さんに、村山、長竹の両キャプテンに、そして共に同じ目的のために同じ汗と涙を流したパトロールメンバーに感謝の気持ちを伝えたい。ありがとうございました。(文責：パトロール委員長 篠岳瑠)

西浜キャプテン 長竹康介

本年は、若い 2 名の命を失う事故が起きました。ご遺族の皆様には深くお詫び申し上げます。人の力に驕っていたことは一度もありませんが、改めまして自然の力の偉大さを実感致しました。そして、一つ一つの命の重みを感じました。この二人の命が報われるように、二度と同じ事故を起こさないように今後のパトロール活動に取り組んでいきたいと思えます。

今年、私は仕事を持ちながらキャプテンをやりました。今までのキャプテンとは違い、毎日浜に立つことができませんでした。そのような中、パトロールメンバーが一丸となり西浜を守ることができました。残念ながら上記のとおり、悲しい事故もありましたが、その後一層『西浜を守る』と言う団結力が高まり、ひとりひとりがそれまで以上の高い意識を持って浜に立っていました。キャプテンが不在の日があることで、人にまかせっきりにならず浜をより良くするために何が必要なのか考えて行動できる学生が良く育ったとも思いました。少しではありますが、キャプテンを学生が行う日が近づいたのではないかと感



じました。

最後になりましたが、今年パトロールをできる環境を作って頂いた、JLA、藤沢市観光協会をはじめ、陰ながら支えてくださったクラブ員の皆様、パトロールに入ってくくださった皆様に感謝の意をお伝えしたいと思います。本当にありがとうございました。

東浜キャプテン 村山貴司

本当に長く険しく楽しい道のりの62日間になりました。それは、8月に入ってから天気のいい日が続き、たくさんの人達が浜に訪れ、たくさんの笑顔に満ち溢れた浜になったからだと思います。今年の夏の抱負でも書かせていただいたように、海水浴客の最高の思い出を演出し笑顔で帰ってもらえるライフガードとして、パトロールに参加してくれた仲間たちがキャストになって、安全を確保してくれたからです。

確かに、人の数だけトラブルや危険も隠れていたのは事実ですが、今年の夏、印象に残っているのは、迷子の捜索や保護したとき、状況や特徴を聞いているときに海の家の方やお客さんが「迷子ですよ」と連れて来てくれることが多く見られました。勝手ながら、東浜に携わるすべての人たちがみんな助けあいながら、支え合った瞬間だったのでは、ないのかな？と思っています。

しかし、例年の悩みであるメンバーの確保でも頭を抱えさせられる事は、ありました。「人が足りない。」苦しい日もありました。お盆の時期は、きついなと感じることもありました。最終日、今年を物語るかのような台風接近。浜には、来ることができない人たちからの電話と終礼中にかかった虹でこの62日間を走ってきてよかったと思いました。なにより、東浜に遊びに来てくれたお客さんたちがみんな笑顔で帰ってくれたことがキャプテンではなく、一人のライフガードとして本当にうれしく思います。

これは、土志田さんをはじめとする理事の方々、いつもEMCから見守ってくださった渡部浩先輩、また、数えるほどしかお会いしていないのに激励の差し入れを下された諸先輩の方々、東浜を望むベランダからいつも見てくださった小峯先生、現場の統括をしてくださった新さん・岳瑠さんのおかげだと思っております。ありがとうございました。至らぬ点やご迷惑をおかけしたことあった自分を支えてくれた仲間たちがいたから過ごせた62日間でした。この経験を生かし、成長していきたいと思っています。これからもご指導、ご鞭撻のほどをよろしく願います。



NISHIHAMA SLSC 〒251-0035 藤沢市片瀬海岸 3-15-22 メゾン西浜 101
Tel&Fax: 0466-23-5353 info@nishihama.org www.nishihama.org



東浜パトロール



西浜パトロール



東浜パトロール



西浜パトロール



西浜パトロール



鵜沼パトロール



事前器材セミナー



事前器材セミナー



表 6-1 西浜パトロール時間

番号	氏名	パトロール時間
1	青木真由美	10
2	縣 千晴	91.5
3	阿部 哲也	10
4	荒井 洋佑	9
5	秋山 あおい	85.5
6	足立 侑加理	105.5
7	荒井 陽絵	30
8	荒木 麻佑	249.5
9	飯塚 剛志	110
10	五十嵐 恒介	292.5
11	井口 裕太	60
12	石川 修平	20
13	石浜 翔	30
14	和泉ちひろ	184
15	伊藤 駿平	29
16	伊藤 光宏	10
17	井原 洋平	6
18	今井あすか	10
19	今井 恵子	30.5
20	植木 将人	10
21	上原 脩太	5.5
22	梅田 果步	10
23	江泉 嘉文	47
24	遠藤 渉	9
25	岡本 菜鈴	115.5
26	大澤 美希	40
27	小川ゆうこ	10
28	小川 雅彦	267.5
29	沖野 淳平	30
30	奥山 邦之	34.5
31	鬼塚 浩平	60
32	小野 好信	29
33	主山 ゆう	10
34	柿崎 貴文	10
35	風間 隆宏	53
36	勝田 浩輝	115.5
37	勝保 開	40
38	加藤 正義	30
39	加藤 みづき	77
40	加藤ミッシェル	268.5
41	金坂光太郎	40
42	上水流 聡	10
43	川島 勝	3
44	河西 哀佑	263.5
45	神戸 浩樹	40
46	北矢 宗志	30
47	京谷 真有	10
48	熊坂 多恵	32.5
49	栗間 千里	20
50	小泉 太郎	20

番号	氏名	パトロール時間
51	古泉徹太郎	10
52	小嶋 大輔	2.5
53	後関 裕輔	49.5
54	小林 瞳	10
55	小林 海	53
56	小宮慎之介	159.5
57	今野 正悠	14.5
58	斎藤 幸滉	50
59	坂 靖明	20
60	坂本 陸	62.5
61	佐藤 弦矢	30
62	佐藤 良太	60
63	澤田 和紀	15.5
64	澤田 喜生	48.5
65	重田 智彦	60
66	篠 岳瑠	447
67	柴田 景子	40
68	柴田耀治郎	80
69	澁谷 錬	60
70	嶋 保人	104
71	清水 涼	224.5
72	城間 盛隆	78.5
73	城森 勇輝	187.5
74	杉山 智	10
75	鈴木 慎一	199
76	鈴木 大輔	90
77	鈴木 裕人	40
78	住吉 実華	60
79	相馬 瞬介	20
80	高木 深太	10
81	高崎 卓郎	174.5
82	高橋 要	10
83	高橋 純	80
84	高橋 崇	8.5
85	竹井健太郎	60
86	太刀川 晶宏	44.5
87	田中 勝明	110
88	田中 友数	4
89	千原 幹大	30
90	塚根 雄也	10
91	津田 直貴	123
92	津野 竜馬	10
93	中川 泰博	7
94	長竹 康介	327.5
95	中野 達矢	55.5
96	中村 遥	195.5
97	中村 裕貴	60
98	新山 真以	96.5
99	野村 嘉之	117.5
100	橋本淳太郎	10

番号	氏名	パトロール時間
101	橋本 有加	61
102	濱田 絵南	349
103	早川慶太郎	86
104	林 健太郎	122.5
105	林 漢洋	60
106	原 伸輔	223
107	平田龍之介	10
108	蛭間 達矢	25
109	深谷 徳香	20
110	福島香奈美	343
111	藤岡 秀昭	30
112	富士松 慶	160
113	藤本 淳志	128.5
114	藤森 千尋	70
115	細淵 大智	40
116	松尾賢太郎	36.5
117	松崎 みづき	9.5
118	松島 裕紀	40
119	水上 篤	474
120	宮坂 耕平	21
121	宮崎あずさ	226.5
122	宮崎 尊	5
123	宮田 沙依	40
124	宮野 実	35.5
125	村川 新	3.5
126	森 陽将	50
127	森 由衣	160
128	森本 絲子	46.5
129	谷中 健文	78.5
130	柳田 邦夫	32.5
131	柳原亜希子	50
132	山下ちひろ	20
133	遊佐 雅美	10
134	和田 淳資	125.5
135	和田 桂子	44.5
136	和田幸太郎	198
137	和田 哲郎	152.5
138	渡辺 健	39
139	渡部 健太	90
	合計	10660.5

30 時間以上のボランティアパトロール参加者（クラブ員）

小宮慎之介、長竹康介、和田幸太郎、風間隆宏、金坂光太郎、熊坂多恵、後関裕輔、小林海、坂本陸、澤田喜生、澁谷錬、橋本有加、早川慶太郎、松尾賢太郎、宮野実、柳田邦夫、和田桂子、渡辺健

30 時間以上のボランティアパトロール参加者（日体大生）

荒井陽絵、井口裕太、沖野淳平、加藤正義、神戸浩樹、佐藤弦矢、佐藤良太、重田智彦、柴田景子、柴田耀治郎、鈴木大輔、鈴木裕人、住吉実華、高橋純、竹井健太郎、千原幹大、中野達矢、中村裕貴、林漢洋、細淵大智、松島裕紀、宮田沙依、森陽将、柳原亜希子



表 6-2 東浜パトロール時間

番号	氏名	パトロール時間
1	青木 将太	10
2	青木 清司	110.5
3	青木 麻佑美	72.5
4	懸 ちはる	25.5
5	秋山 あおい	37
6	足立 侑加里	30
7	天野 千恵子	370
8	荒井 洋祐	102
9	荒木 麻佑	70
10	石川 修平	108.5
11	伊東 秀崇	140
12	和泉 ちひろ	24.5
13	伊瀬 拓哉	26
14	磯畑 光幸	50
15	市川 恵理	20
16	伊藤 彩香	95.5
17	伊藤 光宏	64.5
18	今井 あすか	40
19	植木 将人	96.5
20	上原 脩太	60
21	江泉 嘉文	10
22	大澤 美希	267.5
23	大谷 貴志	4.5
24	沖野 淳平	30
25	岡本 沫鈴	20
26	勝俣 閑	119
27	加藤 正義	10
28	加藤 シシル 美香	30
29	亀井 斉	63.5
30	神部 浩樹	10
31	勝田 浩樹	5.5
32	河西 亮佑	20
33	京谷 真有	131
34	草柳 尚志	65
35	草柳 理香	8.5
36	栗真 千里	40
37	小宮 慎之介	12.5
38	佐々木 恵	19
39	佐々木 靖子	10
40	佐々木 規雄	62
41	塚根 哉	73.5
42	澤田 喜生	20.5
43	篠崎 雅美	110
44	柴田 景子	30
45	嶋 保人	16.5
46	清水 涼	30
47	示野 佳祐	90
48	下林 美穂	182.5
49	杉山 智	108
50	鈴木 郁蘭	50

番号	氏名	パトロール時間
51	鈴木 慎一	10
52	鈴木 大輔	50
53	須山 佳行	200.5
54	関口 鈴香	60
55	相馬 瞬介	70
56	高伊 重道	10
57	高木 溪太	80
58	高橋 崇	36.5
59	高橋 礼美	120
60	高崎 卓郎	40
61	太刀川 昌宏	10
62	高見沢 春香	10
63	高村 快人	10
64	塚根 雄也	64.5
65	津田 直樹	50
66	中村 遥	4.5
67	中村 友美	20
68	中村 裕貴	10
69	林 健太郎	30
70	橋本 淳太郎	100
71	浜田 俊作	24.5
72	平田 龍之介	40
73	平井 沙織	50
74	深谷 徳香	30
75	福岡 慶太	13.5
76	藤岡 秀昭	20
77	藤森 千尋	35.5
78	富士松 慶	10
79	藤本 敦志	10
80	松澤 友樹	20.5
81	松戸 直樹	30
82	三浦 秀樹	60
83	宮田 沙依	10
84	村山 貴司	474
85	森 由衣	24.5
86	柳原 亜希子	30
87	山村 美千代	140
88	遊佐 雅美	485.5
89	米田 豊士	74.5
90	渡辺 夏海	10
91	和田 哲郎	30
92	和田 淳資	20
合計		5830.5

30 時間以上のボランティアパトロール参加者（クラブ員）
石川修平、杉山智、須山佳行、亀井斉、佐々木規雄、高木溪太、平井沙織

30 時間以上のボランティアパトロール参加者（日体大生）
今井あすか、上原脩太、栗真千里、示野佳祐、関口鈴香、相馬瞬介、平田 龍之介、深谷徳香、松戸直樹



【イベントパトロール関係】

西浜 SLSC イベントパトロールとして、2009 年度は主に下記の 4 イベントのお手伝いを行いました。そのうち、 のイベントの概要をお伝えいたします。

6 月	追浜トライアスロライフガード
7 月	江ノ島スイムツアー運営補助スタッフ
10 月	全日本ライフセービング選手権大会本選（西浜開催）安全課
10 月	湘南江の島ドラゴンボートレース補助スタッフ

追浜トライアスロンライフガード（通称：追浜トラ）

初夏の陽気の頃、日産追浜工場特設会場では、熱いトライアスロンレースが繰り広げられます。西浜 SLSC からは、17 名のライフガードを派遣し、スイムレースの安全管理に務めました。平水面でのスイムではありますが、危ない場面も多々あり、レース終了まで気が抜けません。このイベントでの最大の醍醐味は、諸先輩方が多く集まり、一緒にレスキューボードに乗ってパトロールを行う事であり、若手にとっては交流のきっかけとなります。レース終了後の名物横須賀海軍カレーの味は最高のランチです。是非来年は皆様のご参加をお待ちしております。



全日本ライフセービング選手権大会本選安全課（通称：全日本安全課）

イベントパトロール（西浜職人組合）の最大の見せ場でもあり、企画、準備、実行、片付けまで最も気が抜けないイベントでもあります。特に 2009 年度はご存知の通り、東日本予選での台風直撃により、西日本予選分以外のオーシャン種目を全て本選 2 日間で実施する必要がありました。連日連夜全日本実行委員会とホストクラブである西浜 SLSC（西浜職人組合）との間で、綿密なミーティングを幾度となく行いました。迎えた本選前日準備の日。神は私達をあざ笑うかのごとく、その日にも台風直撃。西浜の砂浜全てが海の中に沈み、関係各位は愕然としました。まったく準備作業が行えませんでした。午後にはなんとか作業を行うことができました。大会当日には、朝は誰よりも早く会場に足を運び準備



をして、日が沈むまで作業をしました。結果、全てのレースがほぼオンタイムで実施する事ができ、僕達には大きな経験という財産を得ることができました。全日本終了後に行われる祝賀会での選手の笑顔、誇らしげにメダルを下げている姿を見るために、私達はまた頑張る力が湧いてきます。大会翌日の片付け終了後、こっそりバーベキューをして昼からビールを飲んだのもいい思い出です。



湘南江の島ドラゴンボートレース補助スタッフ（通称：江の島ドラゴンボート）

このイベントは2日間にわたり、江ノ島秋祭りの一環として行われ、我が西浜 SLSC からレースに参戦するという楽しみもあります。毎年全日本選手権翌週くらいに行われるので、参加メンバーは皆リラックスしたムードでイベントのお手伝いをしています。いつものライフセービングとは違った楽しみと緊張感があり、藤沢市観光協会のスタッフの皆様と協力をしながら行うイベントでもあります。なんといっても、宮崎先輩のスターターは板についたもので、これ無しでは江ノ島の秋祭りは語れません。毎年、参加メンバー集めに苦労をするイベントなので、次回以降の検討課題でもあります。





総括

イベントパトロールを行うにあたっては（他の事業にも言えることですが）、事前の準備が非常に重要なウエイトを占め、ここの仕切りが悪いと、全てが台無しになります。

- ・ 事前の根回し
- ・ ベクトルの共有
- ・ 実施後のフィードバック
- ・ ナレッジの共有

主に上記 4 点を意識しながら、積極的な取り組みをしてまいりました。然るべき人に、然るべきタイミングで、然るべきお願いをする。このバランス感が非常に大切になります。また、幅広くクラブ員の参加フィールドとしての位置づけでもあり、なかなか警備や他イベントに参加できないメンバーの参加の受け皿としても、今後は取り組んでいきたいと考えます。それを実施する事でクラブ行事への参加意識を根付かせ、結果クラブ運営の活性化に繋がればと思います。

最後に。

人生において、面倒な事と、面倒でない事が目の前にあった場合、進んで面倒な事に取り組むようにしています。理由としては、面倒な事を解決する事によって自分自身の経験やノウハウが溜まり、自分自身の糧になると信じているからです。そういった『本』では得られない経験をさせていただけるのも、ここ西浜 SLSC の魅力でもあります。

（文責：イベントパトロール担当 飯塚剛志）



7. 教育委員会レポート

藤沢市協働事業

合計 18 校，5,731 名を講習したことになります。この活動は藤沢市との連携を取り開催し、学生へ直接指導することができました。各学校により参加人数や活動教室の規模の違いがあり、先生方からの要望もそれぞれ異なっていたので臨機応変な対応が求められました。次年度も継続して開催する予定なので、今年の実践を踏まえて準備を進めたいと思います。（詳細はトピック 3 を参照）

ライフセービング体験プログラム

海で安全に楽しく遊べるように、ジュニアテキストで学習してから海での活動へと展開しました。レスキューチューブやニッパーボードの使用が特に人気で、昨年に続き参加する姿も見られました。海でしか体験できない浮力体験や、波に乗ることの楽しさに重点を置くと共に、海の危険や危険な生物への知識もしっかりと伝えることができました。

西浜年間ジュニアプログラム

ジュニア登録数 60 名（小学 1,2 年 12 名，小学 3,4 年 16 名，小学 5,6 年 10 名，中学生 22 名）小学 1,2 年生は、参加率が徐々に上がり、チームワークの良さや仲間意識の芽生えを感じます。小学 3,4 年生は、男女バランスの取れた人数構成で、まとまりがあります。小学 5,6 年生は、少数人数ながら合宿への積極的な参加が見られ、目的意識が高いです。中学生については、小学生から入会し継続している会員が多くみられ、人数が大変多くなっています。海での大会は 2 回参加、プール大会は 1 回参加でした。参加対象が 3 年生以上であることや、規定の制限タイムが設けられ、それをクリアしないと参加できない大会も出てきたので、ジュニア界のレベルは格段に上がってきています。

また夏の合宿は 12 名が参加し、恒例の大竹海岸へ行きました（8 月 5～7 日）外海の荒波で強烈なサイドカレントを体験し回避技術を習得したり、大波へ果敢に挑む姿も見られ大変成長が見られました。その他海だけの活動ではなく、日常生活面や食生活への指導も行うことができ、充実した 2 泊 3 日の合宿となりました。

12 月 5 日（土）には保護者会を開催し、33 名のご参加を頂きました。

IRB/PWC セミナー開催

機器のメンテナンス技術向上とスキルアップを目的としたセミナーですが、西浜クラブ内のみ対象だと参加人数が少なく、第二回からは外部も含めて開催へと変更しました。毎回参加しているメンバーからは、ハードなコンディションでのスキルを向上させたいとの要望もあり、今後の検討材料となっています。また指導できる人材確保も今後の課題です。（文責：教育委員長 新山真以）



www.nishihama.org

Te&Fax: 0466-23-5353 info@nishihama.org

NISHIHAMA SLSC 〒251-0035 藤沢市片瀬海岸 3-15-22 メゾン西浜 101



年間ジュニアプログラム（大竹合宿）



西浜 CUP



西浜 CUP



年間ジュニアプログラム（西浜 CUP）



湘南学園 6 年生体験プログラム



年間ジュニアプログラム（保護者会）



IRB/PWC セミナー



IRB/PWC セミナー



各講習会開催

今年度初の試みとして、ベーシック講習会のほか、CPR講習会、更新講習会、アドバンス講習会を開催しました。CPR講習会については、年度の前半と後半に1回ずつ開催し、ライフセービングを知るきっかけやPR等を含め、人命救助の一端を担う者の根幹として、幅広い普及を目指しました。また、複数回の講習会開催にあたり、会場となるサーフビレッジの使用に際しても、日本ライフセービング協会や神奈川県支部と事前に調整することにより、開催側の都合のみならず、受講生に対して日程的な選択肢の幅を広げる結果となりました。さらに、神奈川県支部については講習会開催の告知についてもご協力いただき、ホームページのトップに掲載をさせていただきました。各講習会の開催結果については、概ね全ての講習会を成功で収めることができました。特にCPR講習会においては、高校1年生となったジュニア卒業生も参加し、子供の活動を見て興味、関心を抱いたご両親の参加もありました。クラブ内での過去の教育の積み重ねが、将来を担うライフセーバーの育成へと繋がりを見せる中、彼等を取り巻く周囲への影響というものも垣間見れた瞬間でした。講習会を開催するにあたり最も心がけた点は、講習生へのわかりやすいインフォメーションと、クラブ内での情報の共有です。そのために、各種フォーマットを作成し対応を図りました。しかし、講習会を進めていく中でのマニュアルはなく、誰が担当になってもある一定のレベルで講習会を運営できることが必要であると感じました。その1つに、反省や記録といったものの形を揃えて整理していく必要があると考えます。今年度を通じては、受講生の確保の難しさを学びました。開催の時期的な要因も考えられますが、講習内容に対する差別化と付加価値をつけていくことが重要と考えます。特にアドバンス講習会においては単に人命救助のためのスキルアップにとどまらず、現場のリーダーとしてマネジメント的要素の部分に重きを置き、事前の段取りと確かな情報の共有に務め、受講生に対して掘り下げて考えさせるということを実践しました。

最後に、講習会の開催はクラブ内のみならず、内容も含めて全国的に様々な悩みと期待を抱いています。私達の発展は教育なしではあり得ません。将来に繋がる人材を育てることこそが、未来あるライフセービングの継続となり、社会への貢献となります。その部分を大前提に、今後も各講習会を展開していかなくてはなりません。(文責：講習会担当 五味篤)



アドバンス講習会



CPR講習会



表 7-1 年間ジュニアプログラム開催一覧

2009年度		
日程	場所	内容
4月13日	片瀬西浜海岸	ビーチクリーン&開校式
4月27日	片瀬西浜海岸	サーフレッスン
5月11日	片瀬西浜海岸	ビーチクリーン&サーフレッスン
5月25日	茅ヶ崎サザンビーチ	神奈川県ライフセービング大会参加
6月8日	片瀬西浜海岸	ビーチクリーン&サーフレッスン
6月22日	片瀬西浜海岸	ビーチクリーン&サーフレッスン
7月13日	片瀬西浜海岸	ビーチクリーン&サーフレッスン
7月27日	片瀬西浜海岸	ビーチクリーン&サーフレッスン
8月10日	片瀬西浜海岸	ビーチクリーン&サーフレッスン
8月24日	片瀬東浜海岸	ジュニアライフセービング選手権参加
9月14日	片瀬西浜海岸	ビーチクリーン&サーフレッスン
9月28日	片瀬西浜海岸	ビーチクリーン&サーフレッスン
10月12日	片瀬西浜海岸	ビーチクリーン&サーフレッスン
10月26日	片瀬西浜海岸	ビーチクリーン&サーフレッスン
11月9日	相模原フリースポール	神奈川県プール選手権参加
11月23日	アクラブ藤沢	プールレッスン
12月14日	片瀬西浜海岸	ビーチクリーン&競技会振り返り
12月21日	アクラブ藤沢	プールレッスン&クリスマス会
1月10日	片瀬西浜海岸&山本公園	ビーチクリーン&もちつき大会
1月25日	アクラブ藤沢	プールレッスン
2月14日	片瀬西浜海岸	ビーチクリーン&応急手当
2月28日	アクラブ藤沢	プールレッスン&記録会
3月8日	片瀬西浜海岸	ビーチクリーン&修了式&卒業式



BASIC 講習会

表 7-2 各単発プログラム開催一覧

2009年度			参加者	参加者数
5月21日	小糸小学校	CPR	教員、PTA	30
6月17日	八松小学校	CPR	教員	30
6月18日	小糸小学校	プール指導	小学校1・2年生	100
6月29日	湘南学園	講演	小学校6年生	100
7月5日	片瀬公民館	サーフ・ビーチプログラム	親子参加	30
7月8日	湘南学園	サーフ・ビーチプログラム	小学校6年生	100
7月12日	B&G江ノ島海洋クラブ	サーフ・ビーチプログラム	小学生	5
7月22日	アクラブスイミング	サーフ・ビーチプログラム	小学生	10
8月1日	三共(株)	サーフ・ビーチプログラム	小学生	70
9月4日	小糸小学校	プール指導 着衣泳	小学校3・4年生	86
9月11日	富士見台小学校	プール指導 着衣泳	小学校4年生	100
延べ参加者数				661

表 7-3 資格講習会開催一覧

2009年度		参加者	参加者数
4月26日(日)	CPR講習会	一般・クラブ員	17
5月31日(日)	更新講習会	一般・クラブ員	14
7月(5日間)	ベーシック講習会	一般・クラブ員	18
11月(4日間)	アドバンス講習会	一般・クラブ員	5
2月11日(火)	CPR講習会	一般・クラブ員	11
延べ参加者数			65

表 7-4 IRB/PWC セミナー開催一覧

2009年度			参加者	参加者数
6月13日	IRB・PWCセミナー	メンテナンス	一般・クラブ員	5
2月7日	IRB・PWCセミナー	メンテナンス	一般・クラブ員	12
3月7日	IRB・PWCセミナー	海での実技	一般・クラブ員	20
延べ参加者数				37



8. 競技委員会レポート

今年度も JLA 主催の全日本プール競技選手権大会，全日本種目別選手権大会，全日本選手権大会，また KLF 主催の神奈川選手権大会，神奈川プール競技選手権大会に参加を致しました。今年度の大きな出来事としては，やはり全日本選手権での総合 3 位という結果であると思います。この結果にはみなさんそれぞれの思いがあると思いますが，私はまずはこの現実を素直に受け入れなくてはいけないと思います。

全日本選手権は毎年選手の年齢層が上がる中，選手達の中にはいくつになっても必ず参加をし続ける選手，新社会人としてもなんとかレースに出続けようとする選手，今年初めて参加した選手など様々なメンバーで構成されています。そして今年度は昨年度西浜ジュニアを卒業した坂本陸くん，小林海くんが全日本選手権に出場するという歴史的な年になりました。また，全日本選手権で忘れてはいけないのが，実行委員会として主催する側の立場の方々や安全課・スタッフ・オフィシャルとして参加して下さるの方々，毎年大会開催を理解してくださっている地元の方々，いつも応援をくださるの方々です。こうして西浜を支え，応援してくださっている方々のためにも，地元開催の全日本選手権であり，日本で最も歴史のある西浜 SLSC は総合優勝が義務とまで言われています。しかし，今年度の結果は総合 3 位でした。総合優勝は下田 LSC の手に渡りました。かつてのライバル湯河原 LSC も総合 2 位まで順位を上げました。全国のクラブが西浜を目指してついに追い越す時代になったのか，全国の競技レベルが上がったのか，それとも実際に西浜の力が及ばなかったのか，敗因は様々考えられます。しかし，結果は結果。謙虚に受け止め，またゼロからスタートするべきだと私は考えます。

先ほども述べましたが，今年度は西浜ジュニアを卒業した高校生が全日本選手権に参加するなど歴史的な年でもありました。これまで教育委員会が中心に育ててきた彼らは非常に志が高く，3 人の高校生がボランティアパトロールに参加し，競技会やセミナー，講習会にも参加をしてくれました。彼らは高校生でありながら，すでにライフセービング歴は 3 年以上あり，今年度ライフセービングを始めたばかりの大学生や社会人も驚くほどの泳力やボード技術，海の知識などを持っていました。現在約 60 人が在籍する西浜のジュニア達も彼らのように高校生になって，CPR 資格を取得し，ボランティアパトロールに参加するなど，積極的にライフセービング活動に携わり，心身ともに強いライフセーバーに育ててほしいと期待をしています。それが実現すればいずれは学生約 60 人が在籍するライフセービングクラブが誕生し，より高いレベルのライフセーバーを有した，より安全な西浜の海を作ることが可能だと考えます。このことは全国のライフセービングクラブにとっても大きな影響を与えることだと思います。しかし，そのためには今の高校生・大学生を育てる指導者が必要になります。幸いにも西浜には多くの人生の先輩方，今も熱い気持ちで現場を掛け回っている先輩方，日本代表選手，その他多くの先輩ライフセーバーが存在しています。上記の事柄を踏まえ，競技委員会では高校生・大学生・社会人が一緒に集まり，救助



力・競技力の向上のためにトレーニングを重ねられるような環境を早急に準備しなければいけないと思い2010年度の計画をしているところです。どうか、諸先輩方に於かれましてはこれからの西浜のために知識、経験、熱意を高校生・大学生に伝授していただきたいと思ひます。そして高校生・大学生ライフセーバーは学校の部活動のように3年間、4年間で終えるのではなく、生涯を通じたライフセービング活動として携わってほしいと願っています。

最後に、ライフセービング活動やライフセービング・スポーツを通じて、私たちは社会に安心感を与え、豊かな社会を創る使命があります。西浜はそのさきがけ的な存在として約48年の歴史を刻みました。西浜は常に先頭を歩んできました。日本初の有資格が募るライフガード組織が誕生した時も、クラブ化した時も、ジュニアを始めた時も、NPO法人化の時も、いつも西浜は引かれたレールの上を走るのではなく、自らレールを作り走り抜いてきました。高校生・大学生へと先に導いていくのも日本では西浜がレールを作っていく役割だと考えます。これからもトップを走り続ける西浜を皆さんの手で作り上げ、日本のライフセービング界を牽引していくクラブを目指してほしいと願っています。これまで西浜の歴史を刻んで来られた諸先輩方いつも支えてくださっている多くの方々へ感謝申し上げます。今年度もありがとうございました。(文責：競技委員長 植木将人)

神奈川県ライフセービング選手権大会 京谷真有

第11回神奈川県ライフセービング選手権大会が、2009年5月24日(日)に湘南ひらつかビーチパーク(平塚市)で開催されました。あいにくの悪天候で、朝から雨。たまに雨は止んでも厚い雲におおわれていて肌寒い一日でした。この大会は大人の部はもちろん、ジュニアの部も開催されるので、大人と子供がお互いに刺激を与えられる、とても頼もしい大会です。当日は荒れた天候だったので多少のウネリがあり、おもしろいレース展開になりました。Jrのメンバーの熱気により会場は大人顔負けのレースでした。負けて悔し涙を流す姿、勝っても負けても最後まで仲間を応援する姿、仲間や強敵の勝利を賞賛する姿にジュニアの子ども達のライフセービングに対する熱意を感じられ、感動を覚えました。神奈川選手権は、大会会場がどんどん西に移動してホームビーチから遠のいていっています。来年は大磯で開催が予定されています。全日本と比べると出場人数が少ないので、来年はさらに増やしていきたいと思っています。



全日本プール競技選手権大会 和田幸太郎

「西浜は海は強いけど、プールは弱い。」このレッテルを剥がすべく、チーム総合5位を



目標に掲げて1年間取り組んでまいりました。クラブ藤沢では、週3回の朝練で、各個人のレベルアップを図り、横浜国際プールや辰巳国際水泳場では、マネキンやフィンを使って、リレー種目の強化を目指し、そして玉川大学プールやクラブ藤沢では他クラブとの合同で、SERC 練に取り組んできました。その結果、チーム種目の強化に成功し、今まで個人がぼつぼつ入賞するだけだったチームが、総合3位になることができました。しかしこれは、「海もプールも強い西浜」の足がかりを作ったにすぎません。露骨にタイムで順位が決まるプール競技は、同じタイムのままだとすぐに通用しなくなります。来年以降も、常に上位でいられるチームを作るには、課題は山積みです。女子のリレーが組めないことや、50Mを24秒台で泳げる選手が一人もないというところが、大きな課題となっていますが、まずは、現有戦力で、これからもベテラン選手は上を見続け、そして若手選手はその背中を追い、共に切磋琢磨し、チーム力を伸ばしていくことが大切だと思います。



全日本プール競技選手権(横浜国際プール)

全日本種目別選手権大会 勝俣 閑

「全日本種目別選手権大会」が6月6-7日と静岡県白浜海岸で行われました。大会運営・準備・白浜の地元の方々、みなさまのおかげで選手達は全力のレースがすることができました。レースはオーシャンウーマンリレー(新山, 勝俣, 京谷, 遊佐)で2位と昨年よりも順位を一つ上げることができました。また、ビーチ種目では遊佐雅美, 北矢宗志, 植木将人が4つのメダルを獲得し、サーフ種目では長竹康介, 勝俣閑が3つのメダルを獲得しました。種目別選手権は、夏のパトロールシーズンに備えたトレーニングの成果を出す場として位置づけられています。西浜からは主に社会人が出場し、学生は大学クラブからの出場になっているため毎年参加者は少なくなっています。しばらく大会に出場されていない社会人の方も自身の体力を知る場として、ぜひ来年は参加をしてほしいと思います。また、来年は大学で部やサークルがない学生の出場を増やしていきたいと思っています。

全日本選手権大会 濱田絵南

今年、全日本選手権ではキャプテンをやらせてもらいました。私はキャプテンと言うものを自分は人生で一度もやったことがなく初めはすごく不安でした。去年、キャプテンを



していた先輩たちのように仕切れるかと悩むくらいでした。ですが、わからないことがあれば、社会人や学生の先輩方がアドバイスをしてくれたり、同期や後輩たちがサポートしてくれたおかげでキャプテンとしての役割を果たすことができたのだと思います。大会では後輩たちが頑張っている姿や、今年から出場している高校生の2人が活躍している姿がとてもたくましく思いました。後輩たちが活躍する姿を見て自分もまだまだ頑張ろうと思いました。大会を運営するに当たりスタッフや審判員で参加してくれた皆さん、応援に来てくれたクラブ員の皆さんやご支援をいただいた方々、本当にありがとうございました。皆さまのおかげで選手は全力でレースをすることができました。結果は総合3位になりましたが、周りの方々の力あっての3位だったと思います。来年は優勝を取り戻すためにさらに練習を積み頑張りたいと思います。



全日本種目別選手権（下田）



全日本選手権（片瀬西浜）



高校生選手権（片瀬西浜）

全日本選手権（片瀬西浜）



表 8-1 2009 年度大会結果

全日本選手権(2008/10/11・12:片瀬西浜)	
ボード男子	優勝 長竹康介
サーフスキー女子	6位 新山真以
オーシャンマン	3位 長竹康介
ビーチスプリント男子	2位 植木将人
ビーチスプリント女子	5位 遊佐雅美
ビーチフラッグス男子	優勝 植木将人
ビーチフラッグス女子	優勝 遊佐雅美
ビーチリレー	6位 (柿崎・植木・伊藤・北矢)
CPRコンテスト	A判定 (松沢・柿崎)
チーム総合	3位 西浜SLSC

ジュニアライフセービング競技会(2009/8/23:片瀬東浜)	
ビーチフラッグス	
小学生5年生 男子	優勝 市川圭佑 2位 中島裕太郎
小学生6年生 男子	優勝 小山航季
中学生 男子	優勝 福原由樹 2位 福本想太郎
小学生3・4年 女子	3位 建部汐里
中学生 女子	3位 内堀真純
ボードレース	
小学生3・4年 男子	優勝 翠尾龍二 3位 相馬翔太
小学生5年生 男子	優勝 皆川貴海 2位 渡辺 太郎 3位 市川圭佑
小学生6年生 男子	3位 小山航季
中学生男子	優勝 見角凌介 3位 小林陸
小学生3・4年 女子	優勝 松本桃子 2位 内堀夏怜 3位 森川波音
中学生女子	優勝 坂本佳凧子 2位 上野真凜 3位 加藤りの
ランスイムラン	
小学生3・4年 男子	3位 相馬翔太
小学生5年生 男子	優勝 皆川貴海 3位 中島裕太郎
小学生6年生 男子	優勝 小山航季
中学生男子	優勝 櫻井希 2位 福本想太郎 3位 上野凌
小学生3・4年 女子	優勝 松本桃子 3位 河田楓菜
中学生女子	優勝 坂本佳凧子 2位 加藤りの 3位 上野真凜
スイムリレー	
小学生	優勝 西浜A(小山・渡辺・皆川)
中学生	優勝 西浜A(坂本・桜井・上野) 2位 西浜B(上野・皆川・橋本) 3位 西浜C(小林・見角・加藤)

高校生選手権(2009/5/31:片瀬西浜)	
ボードレース 男子	優勝 坂本陸 2位 小林海
ボードレース 女子	優勝 松崎みづき
ランスイムラン 男子	優勝 坂本陸
ランスイムラン 女子	3位 松崎みづき

神奈川オープンサーフ(2009/5/24:平塚)	
一般の部	
ボードレース男子	8位 荒井洋佑
ボードレース女子	優勝 勝俣閑
オーシャンマン	6位 後関祐輔
オーシャンウーマン	7位 荒井洋佑
ビーチフラッグス	8位 京谷真有
レスキューチューブレスキュー	優勝 北矢宗志 2位 植木将人
ジュニアの部:ランスイムラン	
小学校3・4年生	3位 橋本華
中学生・男子	優勝 上野凌
中学生・女子	優勝 坂本佳凧子 3位 福本想太郎
中学生・女子	2位 渡辺日南子 3位 内堀真純

全日本種目別選手権(2009/6/6・7:下田)	
サーフスキー男子	優勝 長竹康介
サーフスキー女子	5位 新山真以
オーシャンマン	優勝 長竹康介
オーシャンウーマン	5位 京谷真有
ボードレース男子	4位 長竹康介
ボードレース女子	優勝 勝俣閑
ビーチフラッグス男子	2位 植木将人 5位 北矢宗志
ビーチフラッグス女子	優勝 遊佐雅美
ビーチスプリント男子	2位 北矢宗志 7位 植木将人
ビーチスプリント女子	優勝 遊佐雅美
オーシャンウーマンリレー	2位 (新山・勝俣・京谷・遊佐)

全日本ブル競技選手権(2009/5/16-17:横浜)	
50マネキン女子	2位 勝俣閑 3位 京谷真有
100レスキューメドレー女子	2位 勝俣閑
100マネキンキャリアトゥウィズフィン男子	5位 京谷真有 6位 長竹康介
200スーパーライフセーバ・男子	3位 長竹康介
100マネキンキャリアウィズフィン男子	5位 和田幸太郎
ラインスロー	優勝(長竹・植木)
SERC	2位(植木・村山・長竹・荒井)
4×25Mマネキンリレー男子	2位(和田・荒井・長竹・村山)
チーム総合	3位 西浜SLSC

神奈川室内選手権(2009/11/8:さがみはらグリーンプール)	
一般の部	
100mマネキンキャリアウィズフィン男子	2位 長竹康介 3位 水上篤
4×25Mマネキンリレー男子	優勝(荒井・村山・和田・長竹)
4×50mメドレーリレー	2位(高橋・水上・坂本・長竹)
ジュニアの部	
50障害(5・6年生の部)	1位 皆川貴海 2位 小山航季
50障害(中学生女子の部)	1位 坂本佳凧子
4×50mレスキューチューブリレー男子	2位(櫻井・上野・見角・小林)
4×50mレスキューチューブリレー女子	優勝(坂本・加藤・上野・皆川)



9. イベント委員会レポート

今年度も、クラブの活動にたくさんのご参加、ご協力ありがとうございました。地域や share surf room の方々、クラブ員、一人ひとりのご協力あってのイベント委員会です。本当に感謝しています。現在ブームのエコの影響もあってか、ビーチクリーンの 2009 年度の年間参加者は西浜・東浜の総計 2,060 名となりました。地道に続けてきた活動が大きな結果として残りました。残念ながら、夏の前後に年間 2 回予定されていた江ノ島オーシャンクリーンは、天候不良のために開催することができませんでした。来年度は 4 月・11 月の開催を予定しておりますので、これからもよろしくお願い致します。

餅つきは、約 200 名の参加者でした。例年になく、参加者が多く地域の方々にも少しずつ認められてきた証拠だと思います。早い段階から餅をつき始めたので、待ち時間もなく温かい餅を提供することができました。準備や片付けも、迅速に行うことができました。

2009 年 3 月には、神奈川県海水浴場の砂浜を禁煙にする条例が決まりました。条例で海水浴場を禁煙にするのは都道府県では初めてで、海水浴シーズン前の 5 月中に施行する方針のようです。これにより、海岸のタバコの吸殻ゴミが減ることを期待しています。ルールができるということは、そこに何かしらの問題があるということです。海水浴場をパトロールして、夕方にビーチクリーンをしているときに思うことは、なぜこんなにもたくさんのゴミが人の手によって運ばれてくるのか。湘南に住んでいる方たちは、海をととても大切に、そして愛しています。海を大切にする姿勢、それは地域を大切に想う気持ちだと思います。その気持ちは、親が子どもにキレイな海を残したい、ガラスや危険な物が落ちていない海岸を裸足で歩いてほしい、自分の受けた自然の恩恵を次の世代にも味わってほしいという純粋な想いです。

私は年間を通じて、ビーチクリーンを行っています。夏に来るゴミを持ちかえらない海水浴客の中には、湘南の海岸は汚いといっている人もいます。そんな人たちに、冬の湘南はゴミがなく、とてもキレイで冠雪した富士山や江ノ島が見える素晴らしい景観を有する日本屈指の海岸であることを伝えたいです。私はサーフィンに行くと、必ずビーチクリーンをするようにしています。そこで感じたことは、湘南以外の地域へ行くと、ゴミが捨ててあることが多いということです。もちろんその地域の方たちが、ビーチクリーンを行うなど努力をしていると思いますが、湘南に比べるとゴミがあるのです。片瀬西浜、鵜沼海岸でビーチクリーンをクラブとして活動し始めて 10 年という月日が経ちました。この 10 年間で、海岸のゴミは確実に減っています。それも地域の方たちみんなの力だと思います。その一端を担うクラブとして、地域の環境問題に貢献できるように、来年度も新たな気持ちで頑張っていこうと決心しています。また、イベント委員会として西浜のクラブ誕生 50 周年記念に向けて力を蓄え、クラブ員や地域の方々が参加したいと思うようなイベント作りを心掛けていきたいと思っています。

それぞれのライフスタイルに合わせたビーチクリーン、イベントができるように、イベ



ント委員会から、一人ひとりを大切にするクラブ作りを発信していこうと思います。

(文責：イベント委員会 高木溪太)

表 9-1 西浜ビーチクリーン開催一覧

2009年度	イベント	参加者数
4月12日	第102回西浜ビーチクリーン	165
5月10日	第103回西浜ビーチクリーン	180
6月7日	第104回西浜ビーチクリーン	210
7月12日	第105回西浜ビーチクリーン	160
8月9日	第106回西浜ビーチクリーン	240
9月6日	DHL ビーチクリーン	120
9月13日	第107回西浜ビーチクリーン	300
10月11日	第108回西浜ビーチクリーン	140
11月8日	第109回西浜ビーチクリーン	45
12月13日	第110回西浜ビーチクリーン	80
1月10日	第111回西浜ビーチクリーン	150
2月7日	第112回西浜ビーチクリーン	110
3月7日	第113回西浜ビーチクリーン	90
	延べ参加者数	1990

表 9-2 東浜ビーチクリーン開催一覧

2009年度	イベント	参加者数
4月12日	第5回東浜ビーチクリーン	15
5月10日	第6回東浜ビーチクリーン	20
6月7日		
7月12日		
8月9日		
9月13日		
10月11日		
11月8日	第7回東浜ビーチクリーン	5
12月13日	第8回東浜ビーチクリーン	10
1月10日		
2月7日	第9回東浜ビーチクリーン	10
3月7日	第10回東浜ビーチクリーン	10
	延べ参加者数	70

表 9-2 オーシャンクリーン開催一覧

2009年度	イベント	
6月	第8回オーシャンクリーン	中止
11月	第9回オーシャンクリーン	中止



西浜でのビーチクリーン



DHL 者の社員の皆さんとビーチクリーン



CROCS をはいてのビーチクリーン



餅つき大会



10. 事務局レポート

今年度も、多くのクラブ員のサポートによってクラブ運営することが出来ました。本当にありがとうございました。そしてスポンサーの方々、協力店の方々、クラブ事業に対して理解し、様々な協力をして頂いた全ての方に感謝いたします。年次報告書を作成して3年目になりますが、年々活動内容が充実し、着実に進歩していることがわかります。これはクラブ員の皆様の努力と貢献の結果です。改めて西浜SLSCの総合力に驚かされます。

今年度の事務局は、統括に風間隆宏、事務作業担当に遊佐雅美・竹重礼美（期中から）、器材担当に三浦秀樹、メールマガジン（通称：カレマガ）担当に早川慶太郎、渉外担当に入谷拓哉、会計監査担当に宮崎尊の7名体制で事務局業務を行った。特に遊佐雅美・竹重礼美の加入により、体外的な初期対応などが大きく改善された。また早川慶太郎がカレマガに続き、メーリングリストの整備も行ってくれた。これにより会員への情報提供がよりスムーズになると期待される。今後も出来ることからコツコツと一歩ずつ改善していきたい。

本年度の成果として、まず第一に藤沢市に市民活動団体提案協働事業として市内の小中学校を対象としたジュニアライフセービング教室（1時間程度の講演）を実施したこと、そしてH22年度も継続して実施可能となった事があげられる。学校教育の中に入っての実施にあたり様々な問題点・課題があったが、協働事業の名のとおり行政・学校側と一つ一つ問題解決して行った結果、H22年度も継続という評価を頂いた。クラブとしての成長が感じられる事業である。また笹川スポーツ財団より、年間ジュニアプログラムへの助成を受け、マネキンやテントなどが購入することができ、より充実したプログラム実施が可能となった。さらに防水ケース入りにAEDの提供も受けることができた。本年度の新しい試みとして、湘南スタイル講演会（6月）及び藤沢市議会議員対象の海の講演会（7月）に外部講師として参加した。特に藤沢市議会議員対象の海の講演会は、藤沢市議会と姉妹都市である松本市議会の交流事業の一つとして企画され、藤沢の特徴である海について侵食など環境問題やLSの現状などを報告した。今後もこのような広くLSやクラブの活動をアピールできる場を増やしていきたい。

活動が多様化するに従い、それに参加する人も多様化してくる。たとえばパトロールだけに見ても、一昔前は20人前後のコアメンバーが夏をフルで活動し、社会人が数日入る程度であったが、2009年度を見ると、西浜で1日でもパトロールに入った人は139人、東浜では92人。夏フルで入れる人・1日のみの人、パトロール経験が豊富な人・経験がほとんどない人、年齢・体力差など非常に多様なメンバーで構成されている。そのため、ここ数年、特定の人々の能力や経験などに強く頼る属人的な体制になっているのが現状である。属人的な体制であると、特定の人に大きな負担が掛かってしまい、またその人が抜けたときに穴が大きい。それを改善していくには、クラブとしてのメンバー育成体制を、改めて考え直す必要がある。



そこで、現在西浜で行われている各種事業のキャリアパスを考えてみたい(図10-1)。例えば、パトロールを見ると、まずサポーターやライフセーバーとしてスタートする。ここでは、自ら主体的に動くことは少なく、他のメンバーからの指示により動く。次にライフガード。タワーやビーチパトロールなど限定された範囲・時間の判断を任せられ、主体的に動くことになる。当然バッチテストにも合格する必要がある。そしてチーフ。1日～数日のパトロール全般を任せられ、その日のメンバーの人数や能力、海や遊泳客のコンディションなどを総合的に判断して最適にパトロール体制を考える。そしてキャプテン。夏季2ヶ月間のパトロール全体を任せられ、メンバーの育成・確保や体調管理、器材や金銭面も含め統括的に考え、その夏の無事故を目指す。従来は夏のパトロール現場のみで、モチベーション向上も含めメンバー育成がある程度出来ていた。しかし、これだけ多様化したメンバーに対して同じような育成体制では、チーフなどコアメンバーを育てていくのが困難である。そのため、現場での育成を補助する役割として、それぞれのステージに必要な能力を整理し、伝えるセミナー実施や一部マニュアル化をすることが必要となってきたのではないかと強く感じる。属人的な体制というのは、パトロールだけの話ではなく、ジュニアなど他の事業でも同様である。次年度以降、各種セミナーを試験的に実施し、一部マニュアル化を進めて行きたい。西浜の様々なノウハウを文書化・システム化し、公開することにより、他の地域の参考にもなる。それが社会貢献、LS界全体の底上げにも繋がるのではないかと期待している。

ここでひとつキャリアパスについて非常に重要なことは、右上に進むことが全てではないということ。学生時代はチーフとして活躍し、仕事や家庭が忙しい年代はライフセーバー(追浜トラのみも可)として入る。ある程度社会経験を積んだ後、委員長・理事として貢献する。その後またライフセーバーとして参加し続ける。社会人になってからライフセービングを始め、毎年数日でも参加する。サポーターとして支え続けるのも重要。もちろんビーチクリーンのみの参加でも構わない。各ステージに留まるのも、昇るのも、降りるのも自由。ライフセービングを行う。西浜に貢献するという点ではみな同等である。十人十色のライフセービング、参加形態の多様性を最大限の尊重し、認めつつ、全ての事業で高いレベルのアウトプットを目指す。文書化・システム化を行うけど、「命を救う」活動に参加するという誇りと熱い西浜スピリッツは継承し続ける。非常に難しい課題であるが、ワクワクする課題でもあると私は思う。

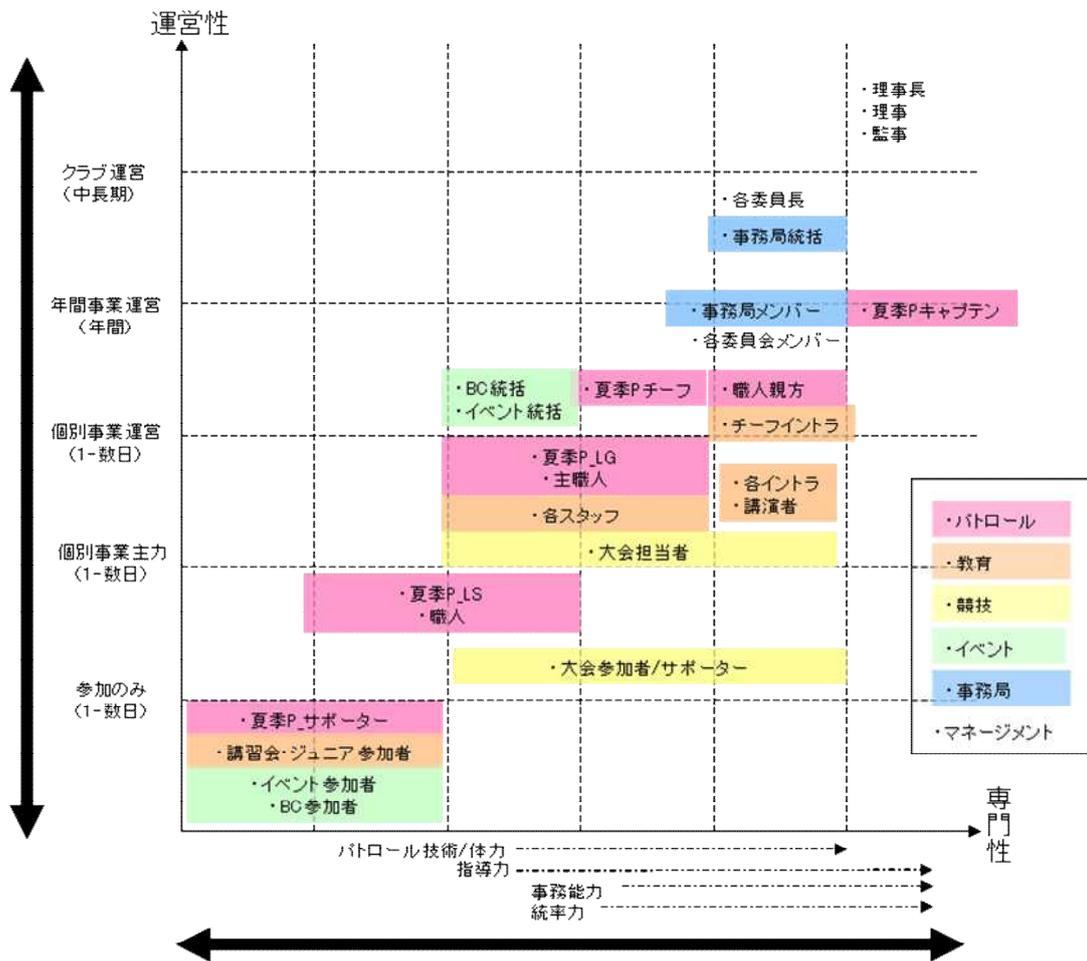
「大きな夢を語り、小さな仕組みにも気を配る」。

最後に、西浜は1963年スタートとすると2012年で50周年を迎える。それに向けても次年度以降、徐々に準備していきたい。その手始めとして現在歴代警備長・役員等を整理している。表10-1に現在整理できたものを示す。間違いなどがあれば事務局にご一報を！

(文責：事務局担当理事 風間隆宏)



NISHIHAMA SLSC 〒251-0035 藤沢市片瀬海岸 3-15-22 メゾン西浜 101 Tel&Fax: 0466-23-5353 info@nishihama.org www.nishihama.org



AED の助成 (笹川スポーツ財団より)



ジュニアプログラムへの助成 (マネキン購入)
(笹川スポーツ財団より)



表 10-1 歴代東西警備長・キャプテン

年	歴代警備長		年	歴代警備長	
	西浜			西浜	東浜
1963	1		1988	26	加藤 淳・野洲武彦
1964	2	金子 邦親	1989	27	山田尚弘・栗原宣昭
1965	3	吉田 一心	1990	28	平藤 昌寛
1966	4	田代 忠昭	1991	29	深山 元良
1967	5	森 茂	1992	30	遠藤 大哉
1968	6	片岡 重男	1993	31	渡辺 健
1969	7	秋岡 伸一	1994	32	斉藤 昌高
1970	8	相澤 重男	1995	33	川島 勝
1971	9	甘粕 隆	1996	34	澤田 和紀
1972	10	甘粕 隆	1997	35	風間 隆宏
1973	11	佐藤 麻理子	1998	36	菊池 充教
1974	12	高田 信一	1999	37	村川 新
1975	13	山崎 洋	2000	38	村川 新
1976	14	坂本 博道	2001	39	鈴木 篤
1977	15	宮崎 尊	2002	40	首里 竜晃
1978	16	桑原 武夫	2003	41	篠 岳瑠
1979	17	湯山 伸喜	2004	42	小林 俊
1980	18	牛島 誠司	2005	43	原 伸輔
1981	19	斉藤 明宏	2006	44	原 伸輔
1982	20	土橋 卓也	2007	45	渋谷 錬
1983	21	小峯 力	2008	46	渋谷 錬
1984	22	重田 健二	2009	47	長竹 康介
1985	23	土志田 仁	2010	48	
1986	24	渡部 秀人	2011	49	
1987	25	篠原 航	2012	50	

表 10-2 西浜 SLSC 役員 (NPO 設立以前)

年	クラブ長	副クラブ長	理事				監事	顧問		
1995	山口毅	土志田仁 渡部秀人	戸田正雄	篠原航	野洲武彦	斉藤裕之		金子邦親 渡部浩	相澤重男	
1996	山口毅	土志田仁 渡部秀人	戸田正雄	篠原航	野洲武彦	斉藤裕之		金子邦親 渡部浩	相澤重男	
1997	山口毅	土志田仁 渡部秀人	篠原航	栗原宣昭	斉藤裕之	平藤昌寛	入谷拓哉	小峯力 戸田正雄	金子邦親 渡部浩	相澤重男
1998	山口毅	土志田仁 渡部秀人	篠原航	栗原宣昭	斉藤裕之	平藤昌寛	入谷拓哉	小峯力 戸田正雄	金子邦親 渡部浩	相澤重男
1999	山口毅	土志田仁 渡部秀人	篠原航	栗原宣昭	平藤昌寛	入谷拓哉		小峯力 戸田正雄	金子邦親 渡部浩	相澤重男
2000	山口毅	土志田仁 渡部秀人	平藤昌寛	澤田喜生	入谷拓哉	永井巧		小峯力 篠原航	金子邦親 渡部浩	相澤重男
2001	山口毅	土志田仁 渡部秀人	平藤昌寛	澤田喜生	入谷拓哉	永井巧		小峯力 篠原航	金子邦親 渡部浩	相澤重男
2002	山口毅	土志田仁 渡部秀人	斉藤裕之	澤田喜生	遠藤大哉	入谷拓哉	村川新	篠原航 平藤昌寛	金子邦親 渡部浩	相澤重男 小峯力

表 10-3 西浜 SLSC 役員 (NPO 設立以後)

年	理事長	理事						監事	
2003	土志田仁	森山大二	渡部秀人	澤田喜生	遠藤大哉	村川新		宮崎尊	
2004	土志田仁	森山大二	渡部秀人	澤田喜生	遠藤大哉	村川新		宮崎尊	
2005	土志田仁	渡部秀人	澤田喜生	遠藤大哉	村川新	平藤昌寛	入谷拓哉	宮崎尊	
2006	土志田仁	渡部秀人	澤田喜生	遠藤大哉	村川新	平藤昌寛	入谷拓哉	宮崎尊	
2007	土志田仁	渡部秀人	澤田喜生	遠藤大哉	村川新	平藤昌寛	入谷拓哉	風間隆宏	宮崎尊
2008	土志田仁	渡部秀人	澤田喜生	遠藤大哉	村川新	入谷拓哉	風間隆宏	三浦秀樹	宮崎尊
2009	土志田仁	渡部秀人	澤田喜生	遠藤大哉	村川新	入谷拓哉	風間隆宏	三浦秀樹	宮崎尊



11. サポート企業一覧

多くの企業・お店にクラブの活動を理解して頂き、サポートしていただいています。ありがとうございます。

スポンサー

BILLABONG®

『BILLABONG』 ジーエスエムジャパン株式会社
大会ユニフォーム（Tシャツ、ポロシャツ、サーフパンツなど）を全選手とIRBスタッフに提供して頂いております。



TIMEX®

『TIMEX』 日本シーベルヘグナー株式会社
スポーツウォッチ、クラブにテントを提供して頂いております。



協力店

珈琲専門店 イースト

第1回のビーチクリーンからおいしい珈琲を提供してくれています。

ピラボン湘南店

コンペティションユニフォームも協賛して頂いている世界No.1サーフブランド！

カプリチョーザ

天気の良い日のテラス席は最高、ボリュームも多く店員さんもとても親切。

フリッパーブルー

鵜沼海岸の商店街にある子供服屋さん。

ラインバックカ-

江ノ島電鉄・江ノ島駅のすぐ側、湘南のお土産を買うならここ。

カイアノア Kai a noa

ハワイアンテースト溢れる、食事も会話もいっぱい楽しめるお店です。

share surf room

村川新プロ（クラブ理事）のサーフショップ

アクラブ藤沢

江ノ電石上駅のすぐ側にあるスポーツクラブ、朝練でも使わせて頂いています。

株式会社 湘南ライセンス

小型船舶免許合格率No.1 優しい指導員の方が分かりやすく教えてくれます。

GUARD SHOP

1Fはレストランバー、2Fはレスキューグッズなどを扱うセレクトショップです。

Days Kugenuma

鵜沼海岸にあるレストラン、納会や忘年会でもお世話になっています。